



十一面観音立像



ダビデ像

# 東西・宗教超えた聖像の美

比べて

美つくり

岐阜市内には奈良時代にさかのぼる古い仏像がいくつか残されている。その一つが美江寺にある十一面観

音立像だ。直立不動の飛鳥仏の伝統的な表現を受け継ぎながら、両腕にかかる天衣の曲線が像に精彩を与えている。薄絹のような衣のひだも、繊細に彫られていて見事である。

この像より約400年後の12世紀。イタリア・フィ

デンツァ大聖堂に作られた

のが、工匠ベネデット・アントラミが手掛けたダビデ像である。顔をやや左に向けて、体に動きが見られる点が異なるとはいえず、手にした巻物の作り出す曲線、衣の精細な彫りが共通している。

聖像の表現には、洋の東西を超えるものがある。それを仏教とキリスト教という、全く違う宗教が生み出しているところが不思議である。

(岐阜大教授・野村幸弘)

様々な「美」を岐阜県内と西洋で見比べてみる。コロナ禍で気軽に海外に行けない今こそ、身近な旅での発見も楽しい。随時掲載します。

## 18日年一度の公開

一面観音立像は、高さが176.6センチあり、土で作った原型に漆で固めた麻布を貼り重ねて成形し、その後土を抜く「脱活乾漆」と呼ばれる技法の張り子づくり。毎年4月18日だけ開帳される秘仏だ。寺が全焼した1945年7月の岐阜空襲では、像を運んで難を逃れたという。

美江寺は奈良時代創建の古刹だ。国重要文化財の十



のむら・ゆきひろ 1961年生まれ。専攻は西洋美術史。芸術を幅広く語り合う「岐阜大学芸術フォーラム」を定期開催。映像作家としても活動し、表現者集団「幻想工房」を主宰。